

## 第3学年 国語科授業実践

- 1 単元名 場面をくらべながら読み、感想を書こう  
「ちいちゃんのかげおくり」

### 2 単元の評価規準

| 知識・技能                                         | 思考・判断・表現                                                                                                 | 主体的に学習に取り組む態度                                              |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 | ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。<br>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 | 文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。 |

### 3 教材のとらえ

本教材は「戦争」を題材とした作品である。児童は「戦争」というものにはじめて向き合う。現代とは異なる時代背景について想像し難いことが想定される。そのため、事前に「戦争」に関する絵本や資料に触れる機会を設け、登場人物の気持ちやその境遇について捉えやすいようにしておく。そして、戦争の悲惨さを知ること、自分たちにとって「幸せ」とは何かについて考え、「ちいちゃんは幸せか幸せでないか」という学習問題に対する自分の考えを深められるようにしたい。

児童が物語の学習をするのは、3年生では3回目である。前単元「まいごのかぎ」では、場面ごとの様子や登場人物の気持ち、その変化を読み取る学習を進めてきた。

「まいごのかぎ」は主人公りいこの気持ちが直接表現(言葉)されている文章が多い。一方で、本教材は主人公ちいちゃんの気持ちを直接表現(言葉)している文章が少ない。そのため、直接表現(言葉)と間接表現(行動や表情、会話など)を確認して教科書への書き込みを行うことで、ちいちゃんの場面ごとの気持ちを捉えられるようにしたい。さらに、各時間の板書を掲示することで、これまでの授業を振り返りながら学習問題について考えられるようにしたい。

「ちいちゃんが幸せか幸せでないか」という学習問題について、児童はちいちゃんの視点と自分たちの視点で多様な考えを互いに伝え合うことで、その考えを深められるようにしたい。また、考える視点によって、ちいちゃんが幸せか幸せでないかは「違ってくる」という新たな気づきが得られるようにしたい。



#### 4 本時の指導案

本時の目標 ・ちいちゃんの気持ちについて、言葉や行動、表情、会話などから捉え、これまでの場面の移り変わりと一緒に結びつけて具体的に想像し、自分の考えをもつことができる。

・話し合い活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

本時の学習(9/12)

| 学習活動                               | ○教師の支援                                                                                      |
|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前時の授業の内容を振り返る。                  | ○前時までの内容を教室に掲示し、いつでも想起できるようにする。必要によってその掲示に注目することができるようにする。                                  |
| 第四場面のちいちゃんはどんな気持ちかな？               | ○子どもたちがそれぞれのペースで読むよう、伝える。                                                                   |
| 2. 本文(第四場面)を音読する。                  | ○全員が考えをもつことができるよう、ペアで話し合う時間を設ける。                                                            |
| 3. (1) 第四場面のかけおくりは第一場面と同じかどうか、考える。 | ○第一場面のかけおくりについてまとめたものを掲示することで、二つのかけおくりを比較することができるようにする。                                     |
| 【第四場面のかけおくり】                       | ○時や場所、かけぼうしの数やかけぼうしをした登場人物といった視点で、二つのかけおくりが同じかについて考えるよう、促す。                                 |
| ・夏のはじめのある朝                         |                                                                                             |
| ・ぼうくうごうの近く                         |                                                                                             |
| ・一つのかげぼうし                          |                                                                                             |
| ・ちいちゃん一人でかけおくりをした                  |                                                                                             |
| 3. (2) 第四場面のちいちゃんの気持ちについて話し合う。     | ○直接表現(言葉)や間接表現(行動や表情、会話など)から主人公のちいちゃんの気持ちを場面ごとにまとめ、捉えることができるようにする。                          |
| ・暑いか寒いかも分からないくらいつらい。(様子)           | ○ちいちゃんの様子と気持ちで板書を分けたり、主語を強調したりすることで、それぞれ自分たちの視点、ちいちゃんの視点で考えていることに気づかせたい。                    |
| ・家族に会えると信じて、かけおくりをした。(気持ち)         | ○「うれしかった」というちいちゃんの気持ちに対して、「ちいちゃんは幸せだったんだね」と問いかけることで、「ちいちゃんは本当に幸せだったのか」という疑問をもつことができるようにしたい。 |
| ・きらきらわらえるほど、うれしかった。(気持ち)           |                                                                                             |
| ・ちいちゃんが家族に会えて、うれしい。(気持ち)           |                                                                                             |
| ・ちいちゃんは空色の花ばたけで家族と会えて、幸せだった。(気持ち)  |                                                                                             |
|                                    | 【思考・判断・表現】                                                                                  |
|                                    | ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと一緒に結びつけて具体的に想像している。                                          |
|                                    | ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 [発言、ノートの記述]                                                 |
| 4. 本時の学習を振り返る。                     | ○話し合いをして分かったことや、自分の考え、自分の考えで変わったところをノートに書けるよう、声かけをする。                                       |
| ・話し合いを通して考えたことをノートに書く。             | ○初読の感想や二つのかけおくりを比べたときに感じたことから、「ちいちゃんは幸せだったのか」について考えることができるようにする。                            |